

# 街を行く

第98回 豊洲 Toyosu

## “粋さ”が欲しいですね

いま東京の注目スポットと聞かれれば、何といても「豊洲市場」です。新橋駅からゆりかもめに乗り、お台場、有明を過ぎた「市場前」が最寄り駅。駅前は市場関係者と外国人観光客でごった返しています。かつての築地市場がそうだったように、彼らの周遊観光コースに組み込まれているからでしょう。築地と大きく違うのは交通アクセスです。卸売市場は本来、関係者の使い勝手に支障がなければ良いはずですが、観光産業化した今はそんな訳にはいきません。とはいえ「交通の便が良い場所に広大な敷地があるのか」という話もあります。

小生は豊洲市場をみると「築地のままだ良かった」と思ってしまいます。コトを蒸し返すつもりはなく、都市開発としての無計画さを嘆いているわけです。つまり、「ここは将来的に周辺が開発され街らしくなるのか」がイメージしにくいのです。そして、築地では感じられた「東京の風情が再び味わえるのか」もピンとこないのです。館内の見学はすぐ終わってしまいますし、市場ならではの海鮮レストランの数も少ないです。小生が期待していたテーマパーク的要素は何一つありませんでした。早晚、話題性が収まり、観光用途としての役目を終え市場本来の機能を粛々と果たしていくのでしょうか。

なんだか批判的なことをお話してしまいましたが、それだけ市場の“テーマパーク性”に期待していたのです。これぞ“日本の台所”と思わせる市場の雰囲気味わせてくれるのかと、ウキウキしながら行ったものですから。



豊洲新市場。“ハコ”としての機能だけでなく、都市としての役割も考えてもらいたいもの

これからの“ハコづくり”は使う人のことばかりではなく、それを観に来る人のことも考えなくてはなりません。つまり、自己満足だけでは新しいマーケットを乗り切れないのです。

箱も商品です。中身だけでなく、見た目も絶対に必要なのです。ハコの一つ一つがテーマパークでなくてはなりません。ましてや人の関心を呼びやすい大きなハコならば当たり前です。これから、オリンピック、万博とイベントが続きます。人の興味が“炎上”する開催期間中は良いとして、その後どう人に関心を維持してもらえるかが大事です。人を寄せる役目を終えたらすぐ用途変更す

るのではなく、初めからテーマパークとしてつくり、後々まで有効利用したら良いではないですか。

南 一弘



1982年大学卒業後、三井不動産販売に入社。ローンスター・ジャパン・アクイジションズを経て、2001年エートス・ジャパン・エルエルシーを設立。同代表に就任。2005年4月MID都市開発(旧松下興産)の代表取締役役に就任。2006年ジャパン・アセット・アドバイザーズを設立。同代表取締役役に就任。